

マイブウ・メーノス（まあーまあー）の世界 ブラジル

ブラジルを訪問する人、ブラジルに関心のある人にお勧めする！！

梅津 久 記

第22話－飛行プラン

ブラジル人の性格、プライドに関しては、前の小話で話して来ておりますが、仕事を進める上で一番困るのが、計画性のなさです。家を改造するにも、1週間で出来ると云ったものが2カ月、購入した品物を何日何時に届けてもらう約束が、ただひたすら待つのみ、会社でも同じ、口では、「はい、出来ます、大丈夫です」と云って、「それでは、何時まで出来るのですか？」と聞くと、しばらくして「・・・いついつまで！」、「エー、大丈夫、では、それまでのスケジュールを提出して下さい」、「大丈夫です、まかして下さい(例のーデイシャ、コミーゴー俺に任せて)」となり、いっこうに催促してもスケジュールが出て来ない。しびれを切らして「これ草案を作ってみたから、それぞれの項目に日付と担当者を記入すれば、スケジュールが出来るよ」、当人「有難うございます、すぐやります(例のージャージャーー今すぐに)」、しかし待てど、暮らせど出てこない。

要は、口で頭に浮かんだことをボンボン話すことは上手に出来ても、頭の中でそれらを順序だてて整理出し、それを計画として表にすることが出来ない、習慣がないのです。

そこで、私が頻繁に口にしているのが、“飛行プランーPlano de Vôo(プラノ ディ ヴォー)”です。飛行機が飛ぶには“飛行プラン”があつて、そこには飛行経路、時間、その他が記載され、空港管理局の許可をもらい、それに沿って飛行する、計画からずれば空港管制塔に報告、監視(モニター)され、“飛行プラン”から外れると、的確に計画変更の指示を受け安全に目的地に着くことが出来る。「釣りに行くにも同じだろう」、「誰と、何時、どこに集まって、何時に車で出発、船に乗って、どこに泊まって、。。。何時に戻ってくる。釣りのための準備は、船、宿泊場所の予約もするでしょう。家族にも何時までには戻ると伝言もするでしょう」これと同じ、「計画なしでは、闇の中を歩いているのと同じ、だれもあなたの歩いているところが見えないし、フォローも出来ない、本人もどこに、何時着くのかも解らないでしょう？」だから“飛行プランーPlano de Vôo(プラノ ディ ヴォー)”が必要なのだとピアノのキーをたたくように何度も繰り返すのですが、そ

れが出来ない。結局は、それぞれの仕事の内容に合わせて、私がスケジュール表をつくり、皆に集まってもらって、手直しをし、それを提出させることになってしまう。でも、何回か続けると「おー、どこかで見たことがあるスケジュール表だ」なんと私が作ったスケジュール表をアレンジして使ってくれるようになってくる。「少しは、進歩したか」と一人ごとになる。

次に小鳥のように常にさえずり続けているのが「プラーズ(納期)!!!プラーズ(納期)!!!」です。これもブラジル人の性格“アテー・アマニャン(また明日まで)”で期限、納期が守れない。製造部門は、納期遅れが発生すれば、すぐにお客様のクレームとなり、場合によっては多額の損害になるので、内外の理由に関わらず、どんなことをしても納期を守る。ところが、間接部門、特に事務部門は“納期”の重要さが解らない、催促しても催促しても、なしのつぶてで、最後は「なにになにがあったので出来ていません」とくる、“デウス・ケ・サーベ(神様が知っている、俺のせいではない)”となってしまう。それで「仕事の納期は製造と同じ、きちんと守らないと、いかに立派なものを作っても必要な時に出来なければ、それはただのゴミになってしまう。仕事の評価がゼロとなってしまう」だから“プラーズ(納期)!!!プラーズ(納期)!!!”が大事なのだと云い続けている。

「あいつの名前は、プラーズ」と云われているかもしれない。

—次号 23 話へ続きます—